平成22年度 第１回 行財政構造改革審議会　議事概要

１　日　時

平成22年7月26日（月）　13:00～15:00

２　場　所

兵庫県公館　第１会議室

３　出席者

(1) 委員

平松会長、井堂委員、稲垣委員、神田委員、田﨑委員、藤浪委員（６名）

(2) 県

知事、吉本副知事、金澤副知事、木村防災監、清原理事、中村理事、細川理事、塚本会計管理者、高井総合政策室長、荒木企画県民部長、久保健康福祉部長、田所産業労働部長、谷口農政環境部長、佐藤環境担当部長、河野県土整備部長、本井まちづくり担当部長、岡田公営企業管理者、前田病院事業管理者、大西教育長、中瀬人事委員長、坂警察本部長（21名）

４　知事開会挨拶

・先日、議会の行財政構造改革調査特別委員会に、現在進めている行財政構造改革の総点検の課題と検討方向について報告した。具体的な方向を明示したわけではなく、検討の方向付けについて報告させていただいたが、９月頃には検討課題を整理し、議論させていただきたいと思っている。

・これまでの審議会では主に財政指標等の数字の意味を議論していただいてきたが、本日は、厳しい財政構造を踏まえながら、10年20年後の兵庫県の将来を睨み、本県のビジョンはどうあるべきかという少し幅の広い長期的な議論をしたいと考え、開催させていただいた。

・2000年に策定した長期ビジョンも10年が経過し、今年度から本格的な見直し作業に入っている。この10年間で世界や日本の歩みそのものも大きく変貌を遂げてきており、この機会にもう一度21世紀中頃までを俯瞰・鳥瞰しながら、10年後15年後の将来像を見定めて県政を推進していく必要があるのではないかと考えている。

・大きな変化としては、少子高齢社会に突入するということと、少子化と高齢化が同時進行するということがある。また、全体的に人口は減るが、農山村の人口の減り方が大きく都市部の減り方は少ないため、地域構造も変わり、おのずと産業の構造も変わってくる。生活のあり方も変化していく。

・これらを踏まえてどのような県づくりの方向を目指すべきなのかを考える必要があるが、単純な見直しではなく、主体的にどう施策を展開するかによって、影響をできるだけ少なくしながら新しい県づくりを進めていくという基本姿勢が大事ではないかと考えている。

・本日は、現在検討している兵庫県の長期ビジョンの見直しにあたり、その前提としている時代潮流の変化等について説明し、ご意見を頂戴できればと考えている。行財政構造改革審議会の所掌範囲として疑問をもたれるかもしれないが、大きな流れを押さえたうえで、2010年代の兵庫県のあり方を考えておく必要があるのではないかという趣旨であり、ご理解をいただきたい。

５　議　事

【会　長】

・本日の議題は、当審議会が直接対象とする論点とは少し趣が異なっているが、兵庫の未来のために行財政構造改革を長期的に遂行していくためにも、長期的なビジョンについて語ることは

意味があるのではないか。
・先日訪問した仙台で、伝統的産業であるこけしを宮城県全体から集めて展示・販売していることや、名物の牛タンは実は古くからあるものではなく考え出されたものであるが今や大きな産業の柱になっていることや、平泉の世界遺産登録に関する日本学術会議の講演に多数の市民が参加していたことなど、本日の審議会の議論のヒントになる事柄を見聞きしてきた。
・兵庫県の場合、地域が広いなど様々な課題もあるが、大いに夢を語り合い、それが行財政構造改革審議会の材料になっていくようにできればと思っているので、各委員の忌憚のない意見を賜りたい。

(1) 時代潮流と兵庫の未来像についての説明

(2) 意見交換

【委　員】
・兵庫県は非常に広大な県土を有しており、７つの地域に全て共通するということはあまりないと思う。例えば、厳しい状況にある香住、浜坂、村岡で一番ネックになっているのは交通だと思うが、地域ごとに最優先に解決すべき課題を浮立たせて対策を考える必要があるのではないか。これを兵庫県全体の問題としてターゲットにすると、焦点がぼけてしまう気がする。
・丹波にしても、篠山を中心とした平成の大合併が果たしてどうだったのか検証しながら、丹波地域の発展のためにどうすればいいのかを議論すべきではないかと思う。
・淡路島にしても、観光立島を目指しているが、観光だけでいいのかどうか。もともと淡路島は農業・漁業が豊かな地域だったが、昨今は皆「魚が獲れなくなった」と言っている。温暖化や大阪湾全体の潮の流れの問題など様々なことが原因のようだが、そうなると、姫路から明石、神戸、尼崎に至る沿海部を論じる際に、工業化や港湾の発展など、どこにターゲットを絞ってどういう議論をするのかということを考える必要があるのではないかと思う。
・県民だより４月号の知事からのメッセージで、「新兵庫の再生に向けて」として、地球規模の構造変化、環境の変化、少子高齢化に象徴される社会の変化など５つの変化について書かれていた。確かにこういう切り口だろうと思うが、これらは全て兵庫県だけの問題ではなく日本全体の問題である。地球温暖化などは人類すべてに共通する問題であり、兵庫県に特化して議論しにくいのではないかと思う。

【委　員】
・県政は様々な細かなところまで目配りをしなければならないため、総花的にならざるを得ないが、次の世代に向かって「兵庫県は特にこれだ」というものを打ち出してほしい。
・その意味では、課題の中にも挙げられている環境問題をしっかりやっていく必要があると考える。これは兵庫だけの問題ではなく世界の問題でもある。
・また、農業問題についても大変大きな課題があると思う。このままの食料自給率で良いのかどうか。今の農業経営のあり方を少し考え直し、もっと効率の上がる農業生産を考えていかないといけない。国レベルの課題かもしれないが、こういう問題に真摯に取り組むべきだと思う。
・「参画と協働」が以前から言われているが、これは、県のもとに民間企業や団体など兵庫県を挙げて人材が協力・参画することによって、目的を達成していくということだと考える。県だけが頑張っても駄目であり、皆で頑張ってサポートする体制を取っていかないといけないと思う。
・少子高齢化が進むため、高齢者ができるだけ健康を維持して社会貢献をする、そういう責任をきちんと果たしていくという気持ちをもたないといけない。
・それと同時に、女性の参画によって労働力の足りない分を補っていく必要があり、それをやりやすいようにしていく必要がある。そのために子育て支援など様々な対策が必要になってくる

のだと思う。欧米諸国と比べても日本は女性の社会進出が少ない。そういう面で我々ももっと考えていく必要があると思う。

・いくつかグランドデザインを描かれたので、視点を絞って進んでいただけたらよいと思う。グランドデザインができれば後はそれを実行する体制が重要であり、やはり絵を描いた皆さんにきちんとやってほしい。知事を中心にしっかりとした体制を組みながら、例えば５年先なら５年先までは責任をもってやっていただきたい。計画倒れにならないように、やり抜くような県政にしていただきたいということをお願いしておきたい。

【委　員】

・過去に数回県の長期ビジョンに関わってきた経験から、特にこれから作ろうとされているものは難しいだろうと感じている。

・そういう経験の中で、「兵庫県独自の課題がない」「金太郎飴だ」とよく言われたが、私はそれでもいいと思っている。それぞれのところが同じ課題に向かって頑張っていく、そういう競争の中で日本全体として良いものがあれば、それを真似していけばいいと思っている。また、兵庫県だけに特別な課題があるかというと、少しはあるが大部分は我が国共通の課題である。

・そのうえで、地域全体を経営していくという観点が県庁全体としては十分でなかったのではないかと思う。これからは、それぞれの部門で地域全体を経営していくという視点を持っていただきたいと思っている。

・地域全体の経営を考える場合、まず地域の活力を高めていくことを目指していかなければならない。それが、現在のように人口が減ってくる時代になっても、大多数の人が求めている姿だと思う。

・人口が減ると活力が減りＧＤＰも減るかというと必ずしもそうではない。例えば、日本国内でも、90 年代に総人口・労働力人口ともに減った県が 10 数県あったが、それらの県では 90 年代の 10 年間で県民生産は逆に向上していた。

・これは、就労のチャンスが少なくなり、その中で人が少なくなると、どうしても人は生産性が高いところに移っていくことから、一人当たり生産性が向上したのではないかと考えられるが、そういったことがこれからはないかというとそうではなく、むしろ期待してもいいと思う。そういうなかでそれぞれの分野で地域の活力を高めていく。

・地域の活力とは、「地域で活動する主体の数×活動の量×活動の質」だと思う。例えば、人口は確かに減っていくが、今後何十年かを見てみると、資料にも記載されているように、兵庫県は中高年や０～14 歳について社会的な流入が見込まれるため、そういうところを活用していくことも考えられる。

・一方、兵庫県は高齢者の就業率が非常に低く全国で四十数位という話もあったが、逆に言えばまだまだ余地がたくさんあるといえる。女性の就業率も非常に低いが、そういう点でもまだまだチャンスはある。そう考えると可能性が高い県であるとも言えないことはない。地域の経営という点で、様々な分野で常にそういう視野で考えていただけたらと思う。

・また、ＧＤＰで表わされるのは、市場分野と公的分野における人間の活動であるが、それ以外に私的な行動というものもある。私的な行動はＧＤＰに反映されないが、逆にＧＤＰが高まる中で私的な行動が狭まって家族の崩壊等が起こってきたのが戦後日本の一つの流れであったのはないかと思う。

・このように、私的部門が減ってＧＤＰが増えるということは良い面と悪い面とがある。そういうことから考えると、今後、ＧＤＰが増えることはもちろん望ましいが、それだけではなく、そこに算出されないような活動を活性化していくということを目指しても良いのではないか。

・金融的にはお金が県内を回るということが大変重要だが、場合によっては、ＧＤＰには反映されないが、地域の活力が高まっていくということでは地域通貨というものを活用してもよいの

ではないか。様々な分野でそういう発想ができるのではないかと思う。
・具体的な対策は、これから県民の皆さんと一緒になって議論し、一生懸命考えた末に出てくると思うので、頑張っていただきたいと思う。

【委　員】
・環境が大きく変わる時に一番大事なのは、環境の変化に柔軟に対応することだと思う。
・私は「環境の変化に柔軟に対応する」「質を重んじて量を追わない」「チームの組み替えを覚悟して失敗を恐れない」というスローガンを持っている。企業の場合は、環境の変化に対応する時に、方針変換する、失敗を認めてやめるものはやめる、やり直す時はやり直すということが、自己責任なので非常にやりやすい。しかし、国も含めて行政は、なかなかやめるということができない。そうすると、資源の再配分の時に、どうしてもやめるものはやめなければ、注ぐべきところに注げないという環境になるのではないかと推察している。
・兵庫県も、国も、他の都市も、問題点の分析や問題意識は十分であり、どこに行くべきかという方向性もそれほど差はない。ただ、地域によって、行くべき方向に若干メリハリが必要なのではないかと思う。あまりに項目が多いとどれを中心にすればよいのかということになる。
・これまで、我々の世代は成長がベースで、環境問題もあまりなく、向かうべき目標がはっきりしていたため、戦略そのものが楽だった。ひたすら技術を磨いて働いて、追いつけ追い越せという戦術だけでやっていた。ただ、今は目標が非常に怪しく、何が目標か分からなくなっている。
・チームの組み替えに関して、異文化共存、異文化共生というものがあるが、外国人と日本人だけが異文化ではない。年寄りと若者、男性と女性、地方と都市、農村部と都会、これらも全て異文化である。異文化の中で多様な価値観を持って共生しながら皆が幸せの満足度を追求していくという社会をどうやって作るのかということだと思う。
・少子高齢化で構成が大きく変わるのは確実であるが、構成が変わった際には必然的に役割を変えないといけない。構成が変わった社会を支える時に、どの人達がどういう仕事をするか役割を変えないといけない。そこで垂直型から水平型に役割を変えるような構造改革が絶対必要になるだろうと思っている。
・よく年寄りを年齢で区別しているが、中身によって全然違う。70 歳以上といっても色々な人がいるし、50 歳以上といっても色々な人がいる。構成が変わるということはその中で役割も変わっていくということを認識して、その役割を今までの既存の役割に固定せずに、正しい役割が果たせるような構造をいろいろと考えていかないといけないと思う。
・資料に 12 のシナリオが記載されているが、私が一番大事だと思うのは「世界に開かれた兵庫」である。兵庫県には港と空港があり、昔から神戸や横浜、長崎は世界に開かれた地域とされている。これを一つの大きなポイントとして打ち出していかないといけないと思う。
・また、戦略的に取り組むべき課題と方向性の中では、兵庫県には、遊ぶ・学ぶ・働くといった地域が集中しているので、「④つながり再生－家族・地域の支えあいを確かなものに」を特徴にしてはどうかと思う。東京では少し難しいが、兵庫ならやっていけると思う。「⑧人材立県」も重要であり、兵庫県人のリーダーがたくさん出てくることを目標に色々な行政を展開してはどうかと思う。
・井戸掘りに例えると、なかなか水が出ない場合は誘い水を注ぎ込む必要があるが、途中でやめられないので水が出るまで注ぎ込んだということにならないように注意する必要がある。そのような場合は、場所を変える判断や、逆に、もう少し注げば水が出るのにやめないようにすることも必要だが、行政の場合はこの判断は非常に勇気がいることだと思う。
・加えて、現在税金を投入している分野でも効率が非常に悪いところもあると思うが、これをいかにやめて新しいところに注ぎ込むかが重要である。県民の意識にも関わることだが、何かを

やめると過去に遡って「これまでの無駄をどうしてくれるのか」となりがちだが、必ず建設的な意見に変えていくように、過去に遡った批判ばかりするというネガティブな雰囲気を変えるというムードが大事だと思う。
・行政に対する非難ばかりではなく、「あなた達はどうするのか」「あなた達の責任はどうするのか」という自己責任リスクマネジメントを県民に理解してもらう必要があると思う。
・「着眼大局、着手小局」という言葉があるが、着眼大局の部分はよくできている。問題は、これを一つひとつどう着手するかということだと思う。

【委　員】
・他の委員からも指摘があったように、あまりネガティブに考えずに、前向きに考えることが大事だと思う。
・高齢化の問題は避けて通れないが、一般的に考えるとマイナス要因のものをプラスに転じていく。例えば、後期高齢者という言い方を兵庫県ではやめてはどうかと思う。物差しとして必要ではあるが、プラスイメージが全く思い浮かばない。先ほどの話のように 50 歳代でも 70 歳代でも、現役の方もいれば病気の方もいる。年齢を経るごとに高まる知識や経験をいかに発揮していただくかを考えるためには、年齢で線を引いた「働く必要はない」というイメージを含む言葉はよくないと思う。
・高齢化するニュータウンにしても、元気で経済力もあり、知識や経験もある人たちの集まりの中で、きっと新しい産業も育つと思う。以前 60 歳代の方から「60 歳になれば、子育ても終わり、そのためにお金を稼がなくてもよくなるなど多くの良いことがある」と言われ、確かにそうだと思った。歳を取ったら悪いというマイナスイメージをどんどん払拭していって、その人達で素晴らしいコミュニティを作っていくという方向にいけばよいと思う。
・少子化の問題について、女性の問題だけに目を当てないで、未婚の男性にもスポットを当てて問題点を解決していかなければならないと思う。家庭の問題、子育て・教育の問題かと思うが、最近の男性は、大事にされすぎているのか会社で叱ったらよく泣く。結婚しないで夫婦でうまくバランスをとりながら家庭を作って社会を作ることが出来なくなっている。
・有能な女子大学生は、「結婚したい」ではなく「自立して仕事をしていきたい」と言っている。結婚して子どもを持つということがどれだけ素晴らしいことかを中学・高校からの教育で教えていかないといけないと思う。

【委　員】
・人口減は日本全体として避けられず、兵庫県はもう少し深刻な状況であると理解した。人口減については、他の委員からも指摘があったように質の問題は避けて通れないと思う。兵庫県の場合は地域の多様性についても考えなければならない。
・以前、地元と協力して、消費量が減少してきている日本酒に関するシンポジウムを企画した。これは、深刻な産業問題というだけでなく、多くの人が関心を持っているテーマを真面目に取り上げてみるのも面白いのではないかという発想だった。様々な課題を地道に解決していく努力をすることも大事だが、打ち上げ花火的なイベント、キャンペーン等で人々の注意を向けてもらう努力もしてみてはどうかと思う。
・兵庫県の場合、様々な地域があり、地域ごとに歴史や産業や文化があるが、そのような地域ごとの強みをキャンペーンやイベントで紹介してはどうか。ただ、県で一度にやるのは無理なので、地域ごとに巡回し 10 年で一巡するような形で焦点を当てて、エネルギーをそこに集中するような企画があってもいいのではないかと思う。その時には、産業でも歴史でも文化でも、県として力を入れて、その地域と一緒になってやるという仕掛けを作ってもいいのではないかと思う。

・人口が集積する神戸の強さをもっとアピールすることも戦略的には大事だと思う。特に港は歴史的に世界に向けた扉だったわけであり、そこから生まれたブラジルとの交流などは、まさに兵庫県に特徴的なものである。これからの経済、特に日本の企業としてはＢＲＩＣｓは避けて通れない地域になってくるが、中国についてはチャイナタウンがあり、インド人在住者も多い。アジアを含めた国際関係に、少し理屈を付けて取り組むというのもいいのではないかと思う。
・県と大学がタイアップするような企画に結びつけるのもおもしろいのではないかと思う。
・先ほど環境の話があったが、兵庫県は太陽電池に強い三洋電機のゆかりの地であったり、パナソニックなども立地している。そういうところとのタイアップの中で兵庫県から環境という問題を考えていってもよいのではないかと思う。
・世界の平和ということを考える場合には広島が強いが、兵庫県は、不幸な出来事ではあったが震災を経験し、そこから立ち上がった経験を持っている。他の地域よりはるかに大きなエネルギーを費やしてきており、世界の災害に対して貢献できるのは兵庫県だと思う。大学や他の施設、県の研究所等とタイアップして、大きなイベントを県の取組みとして世界に開かれた形で行ってはどうか。その後も世界中で地震は起こっており、兵庫県が世界の地震災害対策のメッカになっていくということも考えてはどうか。兵庫県にはそういう役割を担うことが期待されているように思う。
・総括としては、人口減や地域の多様性など難しい状況のなかで、一つには、資料に記載されているような取組みを地道にやっていく。それをどのようにやっていくのかを考えた時に、資金も限られており順繰りにやっていくしかない。地域ごとに順番に、あるいは項目ごとに力点を置きながら、集中してやるというのはどうだろうかと思う。
・もちろん、県としてはファッションや医療関係など強みもたくさんあるので、知恵を出し合って、県は県でそれぞれの地域の強みを生かしたキャンペーンを実施するのはどうかと思う。
・描かれた計画、将来に向けたビジョンを語る中で、一つひとつ実現するための具体的な提案をさらに県民から集める、県民が楽しみながらそれに参画できるような方向からのアプローチが必要だと思う。

【委　員】
・「少子高齢化」「頭打ち」など閉塞感が漂っている状況だが、県の未来を切り開こうという絵を描く時に「将来は暗いという計画だ」と打ち出すわけにはいかない。「将来は良くなる」「未来を切り開いていく」というサブタイトルを付けてでも打ち出すべき。
・人間は心や気持ちで動いており、自分の心を奮い立たせて仕事をしているので、そのような明るさが県政にも必要だと思う。県の職員も自信を持って明るい顔で仕事をしてほしい。

【委　員】
・先ほど申し上げた地域の活動主体としては、住民だけでなく、企業、団体、ＮＰＯ、地縁団体など様々なものがあり、それらをうまく活用していくことが地域経営だと思う。地域経営をしようと思うと自分が責任を持たなければならないが、全て自分でやるわけにはいかないので、そうした主体が効果的に活動できるような対応が必要である。

【委　員】
・県内で小規模集落が増えているのは大部分が但馬と淡路である。特に香美町や新温泉町、佐用町が顕著であり、このままいくと、新温泉町などは 65 歳以上の人口が大部分を占めることになってしまう。限界集落になってしまう前に、地域を特定して、生活維持や集落空間の荒廃等の周辺地域への波及防止などの対策を、可及的速やかに講じる必要があるのではないか。

【委　員】

・今の痛みを未来の夢へつなぐということで、ケネディの演説のように「あなた方は県に対して何をしてくれるのか」ということを言えるくらい、元気を持って発信をしていただきたい。

【理　事】

・ご指摘のように、結婚して子供を産むことが当たり前だったかつての社会の規範が薄れてくるなかで、男性・女性とも未婚者が増えている。結婚・出産・育児に対するプラスのイメージを伝えていくために、学校教育や生涯学習、大学教育のなかで、例えば大学との協定の締結やイベントの実施等に取り組んでいるが、なかなか決め手がなく苦慮している。

・出会いサポート事業等にも取り組んでおり３年間で約 80 組が成婚に結びついた。最近のお見合い結婚の比率は約６％だが、昭和 20 年代では約６割あったことを考えると、周りの人たちがお節介して後押ししてあげるということも必要かと思う。

・15 歳未満の子どもの居る世帯の三世代同居率は、香美町で 65%、芦屋市で６％だが、三世代同居率が高いところほど出生率も高い。そのようなロールモデルが見られるため、ご指摘にもあったように、一律の少子対策ではなく地域の特色にあった少子対策にシフトしていく必要がある。

６　知事閉会挨拶

・多角的なご意見を伺い感謝申し上げる。

・将来ビジョンについては、レッテルを貼り替えると全国版になったり大阪版になったりするので、もっと兵庫の特色を出せないかというお叱りをいつも頂いている。私は、委員のご指摘にもあったように、兵庫は日本の縮図であり日本の全ての特色を持っているため、課題として受け止めているところは日本の課題だと思っている。

・ただ、課題は指摘できるが、回答がなかなか出せていない。この回答の出し方として、東京なりの回答もあるだろうし、兵庫は兵庫なりの回答があるだろうという意味で、回答に対して特色を出すため、県民の皆さんとの一体的な取組みが必要になるのではないかと思っている。

・「その回答は一律ではないのではないか」とのご指摘は、まさしくその通りだと思う。現に、結婚の問題でも既に地域差がある。その関連で、農山村の男性と都市の女性を結びつける「こうのとりの会」という事業を実施しており、10 年間で 100 組の成婚を越えているが離婚がない。これは非常に誇るべき実績だと思っているが、ではなぜなのかということを踏まえて次なるアプローチをしていくことが大事なのではないかと認識している。

・「地域ごとに解決策を講じなければならない」とのご指摘もまさしくその通りであり、神戸の課題と香住の課題は違う。ただ、限界集落の問題は神戸の問題でもあるということを認識しておく必要がある。例えば、町丁単位で見ると高齢化率が 10%を越えている地域も結構ある。

・その場合、委員からも指摘があったように、自由人の集まりだと胸を張って言えるようなまちづくりができているのかどうか、そのような基盤があるのかどうかということが言えれば面白いと思う。

・現在、我々は、小規模集落対策として、都市と農村との相互交流によって未来を作ろうとしている。しかしながら、平均年齢が高いので、これから 10～20 年経つと小規模集落を支えている人がいなくなってしまい、いくら交流で支えようとしても相手方がいないということも考えられる。そうだとすると、地域の中心に拠点をおいて地域全体のネットワークで振興を図っていくようなことも考えざるを得ないのかもしれない。それも、地域ごとの対応をしていかざるを得ない。いくつもパターンを作って、色々な取組みをいわば実験してもらっているというのが今の状況である。今回のビジョン見直しのなかで、そのような取組みがいくつかの提案に結びつけられれば望ましいと思っている。

・兵庫の特色をもっと生かした取組みを色々としていったらいいのではないかという提案をいただいた。地域資源を生かして地域づくりを創造していくという活動をしていただいたが、そのような発想が大事だという指摘をいただいたと理解した。
・世界に対してどうするかという指摘もいただいたが、雇用や質を守りながらどのように世界と付き合っていくのかはなかなか難しい。大企業の場合は切り札を持っているが、中小企業の場合はどのような付き合い方があるか。これも実はビジネスモデルが確立しているとは言えず模索中であり、中小企業が世界に出て行く際のモデルの提案ができればと願っている。
・皆様から指摘いただいたように、ビジョンというものは、県民に地域の将来に対して夢と希望を持ってもらえる、そのような地域づくりが我々の努力によっては可能なのだという提案だと思う。もちろん県も頑張らないといけないが、県民一人ひとりの活力を持った活動が、ビジョンの方向を目指してもらえるようなものにまとめあげることによって県を活性化していきたいと願っている。
・ビジョンについては、これから来年秋に向けて取りまとめる予定だが、当審議会にも中間報告をしながら、意見を頂きたいと考えている。行財政構造改革は締めるばかりだが、何のために締めるのかというと、それは将来の兵庫をつくるためなのだということを意識したいという意味で、ビジョンについて議論をするということにさせていただいた。今後とも続けたいと考えているため、ご指導をお願いしたい。